

『アドバンス 中学公民資料』 「特設」パーム油から考える地球環境問題」

東京都墨田区立本所中学校 種藤 博

1. 国際単元充実の必要性

平成24年4月より中学校では、新学習指導要領が完全実施となった。とくに3年生は社会科の授業が年間140時間となり、6月まで歴史の学習をし、7月から公民的分野に入った学校が多いと思われる。この冊子が先生方に読まれている今の時期は、3年生を担当されている先生方にとって多忙な時期だと思われる。

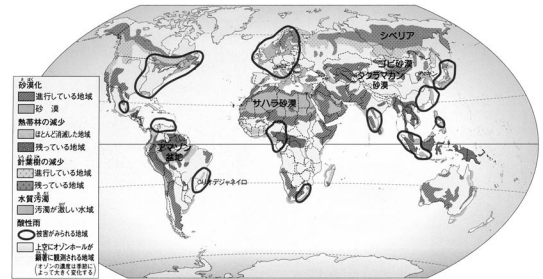
本稿では公民資料集『アドバンス 中学公民資料』（以下、資料集）の活用法を紹介する。この資料集でぜひ見ていただきたいのが特設ページである。「パーム油から考える地球環境問題」や「菜の花プロジェクト」を特集したものなど、生徒にさまざまな資料を提示するうえで有効である。また、最後の方にある学習活動の例も参考にさせていただくと、授業の幅が広がると思う。

今回は、第4部国際単元の特設ページ「パーム油から考える地球環境問題」のページを取りあげる。このページは、公民的分野の総仕上げである「国際単元」の一部である。国際単元は、高校入試との兼ね合いでどうしても内容をおさえるだけで精一杯の先生方が多いのではなかろうか。しかし、この単元は公民的分野で獲得した知識や技能を活用し、中学校3年間で培ってきた思考力・判断力・表現力を試すにはよい機会である。また、中学校3年生のこの時期こそ、抽象的な概念を理解し、考えることができるようになってくるものだと私は考えている。

2. 特設ページ「パーム油から考える地球環境問題」活用例

(1) 現実の国際関係を反映できる内容

本稿が取りあげるページは、『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）の第4部「私たちの暮ら



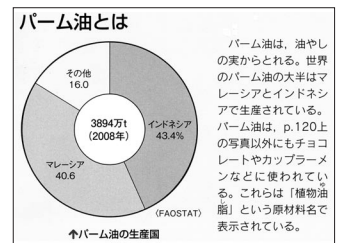
『社会科 中学生の公民』 p.193④おもな地球環境問題

しと国際関係」2章「私たちの地球をみつめて」の導入やまとめとして実践できるものと考えられる。例えば、教科書p.192～193では、現実に行っているさまざまな環境問題を取りあげている。そして、この問題は一国だけでなく世界各国の協力のもとで解決しなければならない問題であると述べている。昨今、気候変動枠組み条約締約国会議（COP）では、発展途上国と先進国で利害が対立し、共通の解決策を見出すのが難しい。グローバル化が進展する世の中で、中学校3年生の生徒たちが将来、この問題を自分たちで考え、解決することは避けられないものであろう。

そこで、他人事として学習するのではなく、現実世界に近づけることができるように学習を展開できるのが、本稿で取りあげる特設ページ「パーム油から考える地球環境問題」である。

(2) 特設ページ「パーム油から考える地球環境問題」の展開例

導入でアイスクリームやポテトチップスなど、私たちの身近な食べ物や製品などにパーム油がたくさん使われていることで、興味・関心を高めさせる。そして、パーム油の原料や生産国を確認し、パーム油が私たちの生活に



『アドバンス 中学公民資料』 p.121

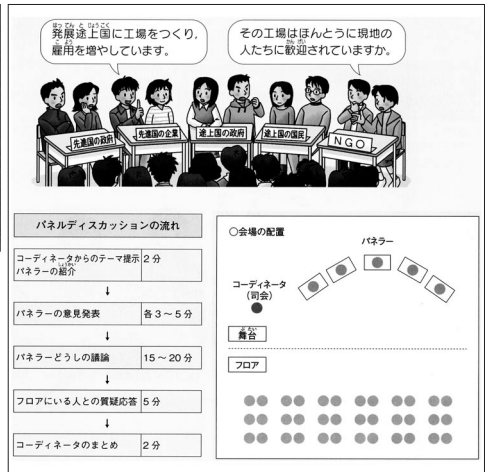


左: Aさん(『アドバンス 中学公民資料』p.120)、右: Bさん(同p.121)

欠かせない存在であることを理解させる。

次に、資料集p.121の「考えてみよう」を実践してみる。「環境の立場」「経済の立場」は、それぞれ環境問題における先進国と発展途上国の立場に似ている。この点が、現実社会を疑似体験するのによくと考える。これは異なる意見の人々(対立)が、合意をめざす過程である。さらに至った合意が利益をもたらすものなのか(効率)、人々に広く還元されるものなのか(公正)、検討していきたい。まず最初に、「環境の立場から考えるAさん」と「経済の立場から考えるBさん」のそれぞれの主張を読ませる。そして、生徒に3～5分間考え、話し合う時間をもたせ、自分はAさんBさんどちらの考え方を支持するか挙手させる。現在、私は1年生の担当だが、南アメリカ州の主題追究の過程で、「南アメリカ州の開発と環境のどちらを優先させるべきか」を考えさせた際に、クラスによって環境を支持する生徒が多いクラス、開発を支持する生徒が多いクラスとクラスによって状況が異なった。

自分の意見をもたせたところで、自分たちが支持した主張が正しいかを考えさせる。その際に、「日本人の消費者」「日本の商社」「現地の生産者」「熱帯林で暮らしていた人々」「NGOなど環境保護団体」などの立場を板書し、それぞれの立場から環境か経済かを考えると、より一層考えが深まるものと思われる。生徒に簡単な調べ学習をさせたり、教師が資料を用意すると生徒たちがより切実に考えられると思う。話し合いの際には、自分の意見をノートにメモしておくように指示を出しておく、発言のときに便利である。話し合いが終わったら、経済・環境それぞれの立場から意見を述べてもらう。自分から意見が出てこなければ話し合いの間に、よい意見を言っている生徒を見つけておくことも大切である。最後にもう一度、環境か経済かの立場を確認し、自分の意見を書か



『アドバンス 中学公民資料』p.131

せて終わりにする。

(3) さまざまな学習活動への応用

先にあげた立場をもとにして、学習を発展させることも考えられる。学習活動の例として、資料集p.131「パネルディスカッションをしてみよう」やp.132「ジグソー学習をしてみよう」にも応用することができる。パネルディスカッションでは、それぞれの立場で調べ学習をさせる。ヒントとして、日本の企業のホームページには、「企業の社会貢献」という項目があり、そのページを参考にするとよい。また、NGOのホームページから、野生生物や環境保護の内容などを調査させるとよい。資料集p.120～121の資料も参考になる。実際にパネルディスカッションをするときには、相手にわかりやすく説明するために、データなど数字を利用するように指導をしておくともよいであろう。

3. むすびに代えて

本稿で取りあげたページは、教科書第1部「私たちと現代社会」で学習した、「対立と合意」「効率と公正」の活用にも役立つ。このページの環境と経済から、「対立」という概念を導き出すことができる。そして、「合意」に至るには「効率」や「公正」という概念が必要となる。教師の学習展開にもよるが、例えばパネルディスカッションを終えたところで、生徒の発言を取りあげ、そのなかに「効率」や「公正」の概念が含まれていることを教師が指摘して最後のまとめとすることも可能である。そして、どのような問題であっても「合意」に至ることは難しいことなのだとして学習を通じて生徒に伝われば幸いである。